

生物暦 Vol.9

～いきものこよみ～

国立環境研究所 生物季節観測研究チーム 2024年8月28日発行

1.ごあいさつ

調査員の皆様、いつも生物季節モニタリングにご協力いただきありがとうございます。8月も終わりますが、まだ最高気温が30°Cを超えるところもありますね。夏の観測についても、暑すぎてなかなか外に出られなかったという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

2.これまでご報告いただいた観測データの内訳

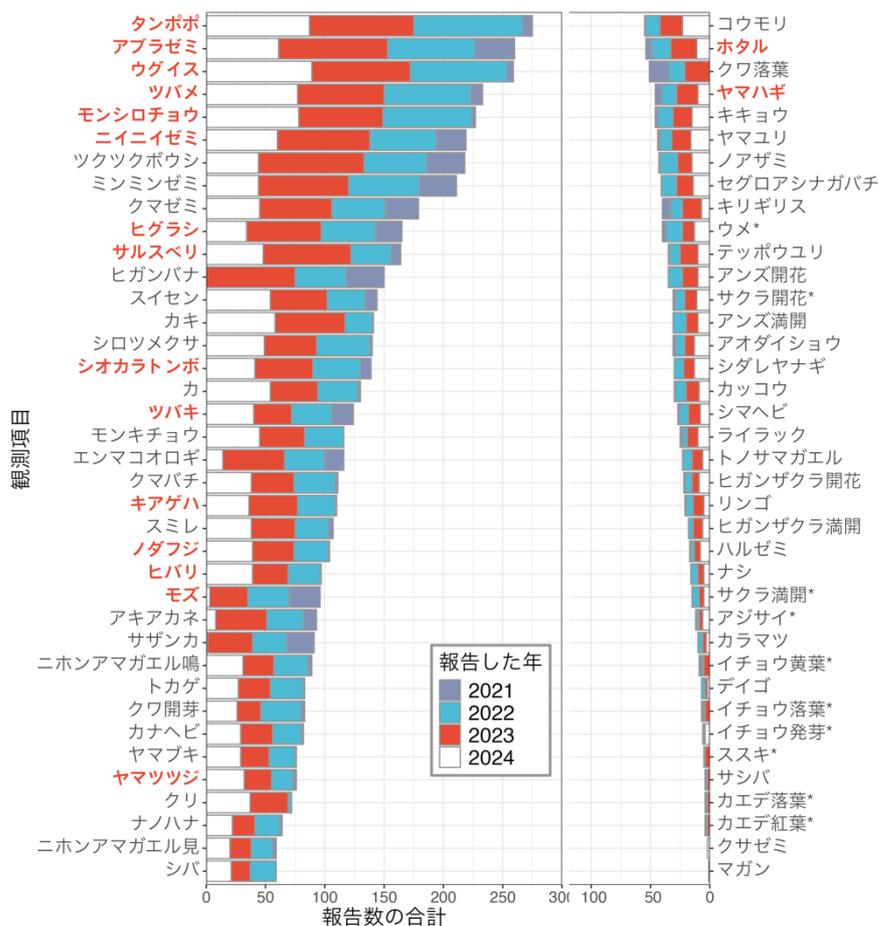
これまで6,000件以上の観測のご報告をいただいております。今回はその内訳をご紹介します。

グラフはモニタリング開始から今までの各観測項目の報告数を示したものです。赤い文字で記載した項目は重要種目、棒グラフの色は報告した年を示しています。また、*印のついた種目は気象庁が継続して観測している項目です。

観測報告数の最多はタンポポ、2位はアブラゼミとなっています(8/21までの6139件の報告を集計)。観測報告数の上位10種の中に、セミが6種も入っていました(アブラゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、クマゼミ、ヒグラシ)。これから報告される方もいると思いますので、まだまだ増えそうです。しかし、同じセミの仲間でもハルゼミ・クサゼミは報告件数がとても少なく、それぞれ20件もありませんでした。クサゼミ

は生息場所が限られているためでしょう(沖縄本島以南に分布)。また、ハルゼミは全国的に分布していますが、複数の県でレッドリストに掲載されています。他のセミよりも早い時期に鳴くこと(4-6月)や生息地が減っていることにより観測が難しくなっているのかもしれません。

重要種目はどれも報告数が多いのですが、その中でホタル、ヤマハギ、ヤマツツジは少なく、100件未満となっています。これらは調査員の皆様の観測範囲にあまりいない生物なのかもしれません。特に、川や湿地に生息するホタル(ゲンジボタルやヘイケボタル)は生息場所自体が減ってきており、また、夕方から夜間に観察する必要があるので気軽に観察しに行きにくいのかもしれませんね。



活動へのご意見・お問い合わせの窓口
E-mail: ccca_phenology@nies.go.jp
Tel: 0298-50-2375 担当：松島・西廣